

平成24年度 東京都立白鷗高等学校・附属中学校経営報告

校長 若井 文隆

本年度重点目標は3期生の進学実績の確保と中高一貫教育の成果検証を踏まえた教育活動の展開、さらにICT機器活用推進校としての活動や国際交流の具体化にあたった。特に、3期生の進学結果が今後の中高一貫教育校としての本校に対する評価となることから、教職員一同心を一つにして教育活動に取り組んだ。その結果、進学実績は当初目標を概ねクリアできた。しかし、継続して取り組む課題も多く残っており、そのような1年を振り返りつつ報告としたい。

※ Aは概ね達成できた。Bは概ね達成したが今後も継続が必要。Cは達成できなかったのだからに継続

項目	取組目標	達成時期	結果	達成度	
① 学校運営	ア	中高一貫教育校の検証結果の踏まえた教育活動の継承と、新たな取り組みの策定。	3月	中高一貫教育校としての教育活動には、成果が見られたが、新たな取り組みの策定はできなかった。	C
	イ	分掌及び学年、教科での年間目標と年度末の検証の実施。	3月	教科については教科単位の詳細なシラバスに基づき実施できた。分掌についても分掌間で検証を行い、次年度の取り組みに生かしていく。	B
	ウ	各分掌、教科会における中高の情報交換の促進と統一した指導体制の構築。	3月	各分掌及び教科で連携を図りながら指導体制の構築を図った。	B
	エ	広報活動、入学選抜等を中心にさらなる経営企画室との連携強化。	2月	広報活動は教員が中心となつての実施のため経営企画室との連携強化は十分図れなかった。入学者選抜は経営企画室の積極的な関与もあり強化が図れた。	B
	オ	年間3回の授業研究月間を設定し、全教諭が3回以上の授業見学を実施する。	3月	授業研究月間の設定はできなかったが、教員が意識的に他の教員の授業を見学し授業力の向上に努めた。	B
② 学習指導	ア	生徒による授業評価および生徒実態調査を2回実施し、これらの結果分析を授業に反映させ、次年度の教科目標を策定する。	9月 1月	授業評価における自由意見欄など、授業改善に生かせるように工夫した。生徒実態調査は本校運営の指標となるものであり、今後も継続的に行っていく。	B
	イ	教科別指導方法の教科内検討会の実施と進度の分析を行い、教科指導に関するさらなる工夫・改善をおこなう。	2月	分析会は予定通り実施したが、各教科の横断的な連携の推進を図ること。	B
	ウ	生徒指導資料のデータベースを図る。	3月	個々の成績処理については保管管理できているが、利用についての検討が必要。	C
	エ	東大生等のチューターの活用と自習室の充実を図る。	3月	チューターの活用は定着してきたが、学年と進路の連携し、組織的利用を図ること。	B
	オ	適切な宿題や課題を課することにより自宅学習時間の確保を図る。	2月	1年1時間55分・2年1時間14分 3年1時間26分・4年1時間26分 5年2時間0分・6年3時間29分	B
	カ	英語、漢字などの各種検定に対する年間実施計画の策定。	3月	中学生は漢検・数検・英検の全員受験。高校で導入したGテックの継続と分析による学力の把握。	A

	キ	学年検討会・センター検討会等4回以上の実施。	3月	検討会は卒業生も含め4回実施した。今後は、生徒一人一人に対するきめ細かな対応策の策定。	A
③ 進路指導	ア	5教科による勉強合宿の実施により、学力の伸長を図る。	8月	5教科での実施は定着したが、参加生徒の意識を更に高めること。	B
	イ	自己の学力把握のための実力テストと模擬試験の実施。	3月	1年から6年までを見通した白鷗模擬試験計画の策定の継続。	B
	ウ	長期休業中の補講・補習の参加者延べ2000人以上。	1月	6年38講座7455名・5年8講座1587名・4年15講座594名・3年9講座703名・2年7講座1568名・1年9講座1384名 総計13291名	A
	エ	国公立大学・難関私大への実質進学者数80名以上。	3月	国公立進学者36名・難関私大(早慶上理)進学者27名計63名	B
	オ	難関国立大学への合格者10名以上。	3月	8名(東大5・東工大1・一橋大1・千葉大医1)	B
④ 生活指導	ア	あいさつの励行と時間厳守、制服の着こなし等を基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成を図る。	3月	制服の着用指導や規範意識の育成に努めた。制服の着用に関しては指導を継続的に行う必要がある。	B
	イ	中高一貫校としての行事の検証と工夫・改善を図る。	10月	3年生としてのリーダーの育成と一貫校としての行事のあり方(体育祭及び文化祭等)の検証を実施。特別枠生徒による文化祭公演を実施。地域との連携強化が図れた。	A
	ウ	自主的・自律的な生徒会、委員会活動とその活性化を図る。	3月	生徒会を中心に文化祭において宮城県の高校の支援のための企画を計画・実施した。	B
	エ	部活動の活性化を図り、関東大会出場以上3団体、中学では都大会出場3団体以上。	3月	ほぼ全生徒が部活動に加入するなど活性化は図られている。百人一首部は中高全国クラスの大会に出場。陸上は都大会出場	B
	オ	年間皆勤者数、学年平均50名以上。	3月	1年67名・2年32名・3年30名(3年間)・4年61名・5年37名・6年38名	B
⑤ 募集広報	ア	学習塾等への訪問30以上。	1月	校長のみで11箇所	C
	イ	中学校説明会参加者5000名以上。	1月	学校説明会約6300名 学校公開来校舎3557名	A
	ウ	中学校入試倍率7.0倍以上。	3月	8.05倍	A
	エ	高校説明会参加者500名以上。	1月	学校説明会約800名・施設見学会270名・授業公開304名	A
	オ	高校入試倍率1.7倍以上。	3月	1.69倍	A
	カ	ホームページ委員会の充実を図り、内容のさらなる充実と、週に一度の更新ペースを維持する。	3月	総務部担当と学年担当間の連絡を密にし、ほぼ週1回程度の更新を行なった。更に内容の充実を図る。	B
⑥ 健康推進	ア	生徒の状況把握を行う全体会の実施。	2月	専門医による研修会を実施し、生徒理解に役立てることができた。	B
	イ	カウンセリングチームによる個別指導の徹底。	3月	管理職、カウンセラー、養護教諭、担任団によるケース会議は該当者がいなかったこともあり未実施。	C

	ウ	健康推進のための講演会実施。	3月	保護者、生徒等対象別に各1回実施した。	A
⑦ 情報活用	ア	I C T機器を使った2回以上の授業研究の実施。	3月	I C T機器を使った授業研究はできなかった。フォーラムに1年生全員が参加した。	B
	イ	I C T機器を活用した教職員の情報共有の促進。	3月	I C T活用教材の開発や学習コンテンツへの応募、成績推奨ファイルの導入等知識の共有を図った。	A
⑧ 国際理解教育	ア	海外修学旅行及び海外短期留学の内容の充実。	2月	現地校との交流に向け、プロジェクトチームを立ち上げ、文化祭ではその取り組みを発表した。	A
	イ	国際交流の活性化を図り、留学生等の受入の活性化。	3月	4月からの1学期間にアイルランドから4名の生徒を受け入れた。	B
	ウ	海外の学校との姉妹校提携と具体的な連携の実施。	12月	8月にオーストラリアの受け入れ校の一つと姉妹校の締結を行う。また、7月にマレーシアのジョンファとリーダー研修留学を実施。	A
	エ	日本の伝統と文化理解教育の積極的発信。	3月	和太鼓部等による地域のイベントに参加するとともに、浅草観光連盟主催の行事にも積極的に参加した。	A
⑨ 地域連携	ア	中学の地域交流15カ所以上。高校の地域交流10カ所以上。	3月	中学伝統文化体験8箇所、中学職場体験53箇所、高校奉仕連携4箇所	B
	イ	大学進学に向けた保護者向け講演会の実施。	3月	双鷗会(本校PTA)と協力し、予備校の講師を招き講演会を実施	A
⑩ 経営企画室	ア	適正な予算執行及び経営計画に基づいた予算計画の策定	3月	企画室職員と連携を図りながら適性に執行及び策定を行った。	A
	イ	行政系職員と教員系職員の連携を強化し、円滑な教育活動の推進を図る。	3月	連絡を密に取りながら、教育活動を展開したが、一層の連携強化が必要。	B

## 主な目標項目と数値目標

項目	目標	対象	23年実績	目標数	24年実績
②	自宅学習時間	中学生	1時間26分	2時間以上	1時間32分
		高校生	2時間04分	2.5時間以上	2時間18分
③	進路決定	国公立大学・私立難関校進学者数	合格132名 進学67名	80名以上	合格104名 進学63名
		難関国公立大学合格者	8名	10名以上	8名
③	夏季講習参加者	中学生	1,2年延べ1120名	延べ500名	延べ3655名
		高校生	延べ9288名	延べ2000名	延べ9636名
④	皆勤者数	中学、高校学年平均	学年平均46.3名	50名以上	40名以上
⑤	説明会参加者	中学校	8627名	4000名以上	9857名
		高校	830名	500名	1070名
⑤	一般入選倍率	中学校	7.96倍	7.0倍	8.05倍
		高校	2.08倍	1.7倍	1.69倍
⑨	地域交流	中学校	54カ所	15カ所以上	61カ所
		高校	13カ所	10カ所以上	12カ所以上